

しろはく活動記録

古地図と城の泉 第60号

紙上初 金鯰・鯰版画、置物展示会

平成30年4月15日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

城郭現地調査報告及び資料調査 博物館事業報告

1・紙上金鯰・鯰・版画置物コレクション展

明治8年京都大博覧会出品御物金鯰之図 遠藤茂平 井上治兵衛印行

東京名所三十六 撰元昌平坂博覧会 昇ノ鳥一景 金鯰

東北の古書店と名古屋の錦絵屋さんから同時に名古屋城金鯰の錦絵を分けていただいた。この機会に紙上錦絵金鯰、金鯰資料展を開催したい。惜しむらくは純銀の名古屋城天守に金の金鯰が付いた置物を二十年ぐらい前に紹介いただいた。高くて躊躇していたら、貴金属業者さんに持っていかれた。あの金鯰無事でいるだろうか？また、金鯰ではないが貝で作られた高さ1mぐらいの名古屋城天守、立派なものであったが、車はいっぱいで積めないし、大きすぎて置く場所がないため断念した。昭和六年大阪城天守再建の際、鑄造された銅で作られた鯰鉾、金ではないが、一匹で箱入りを10年かけて2個見つけ、一対にして飾っている。名古屋市庁舎建設時の陶器製の金鯰は骨董屋さんが持ってきてくれた。祭りの屋台のような木製の金鯰、金属製の金鯰、見つければ集めていた。錦絵は城、合戦、台場ともに、金鯰はコレクションアイテムである。199



英鳳名古屋城・北斎江戸城

2年東京イナックスギャラリーで開催された金鯨展は金鯨そのものの紹介が中心であったが、良い企画で人気であった。見ているとコレクションのあるなしは引き分けのように思える。



神田御社眺望



古今珍物集覧元昌平坂聖堂国輝



元昌平坂博覧会一景



尾張国名古屋城天守之金鯨 明治7年4月松本博覧会



尾張国名古屋城天守之金鯱 保存に依る退色に差があるが、同一版と思われる。



諸国名所尾張名古屋真景広重・同葉書

明治8年京都大博覧会御物金鯱之図遠藤茂平



名古屋市庁舎完成記念品 1933年銘あり



青銅製鯨



土産置物



名古屋土産紙袋



鯨置物



置物・本の葉・耳かきその他



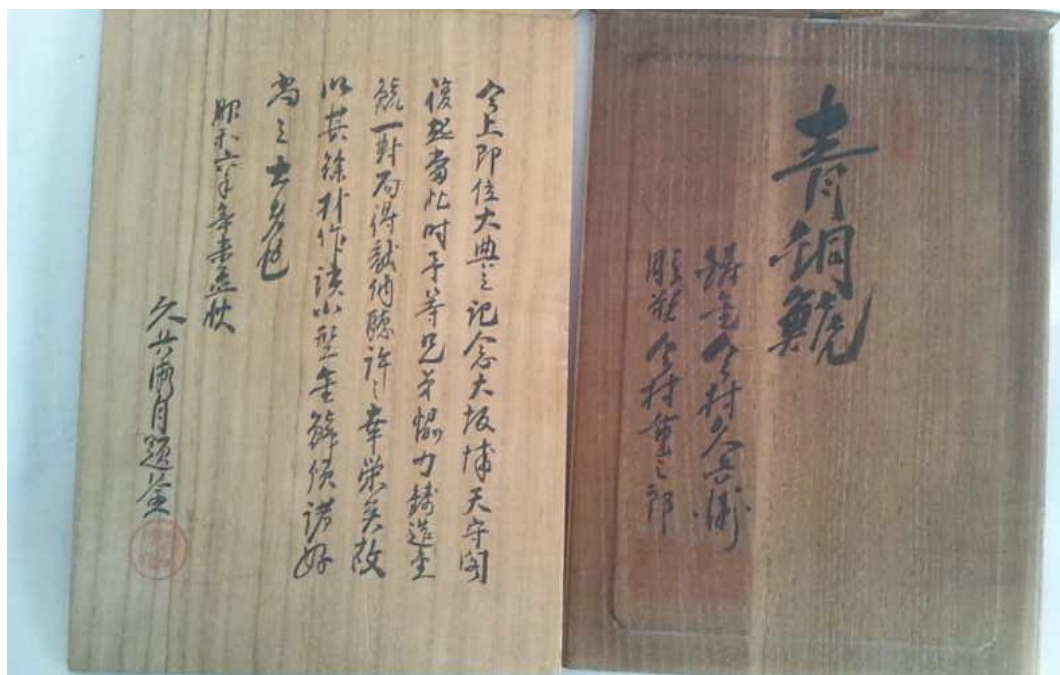
金鯨飴30年たったら溶けていた。



3Dレーザー金鯨・灰皿・ぐい飲み鯨焼き付け



七宝の金鯨皿



昭和六年大阪城天守閣復興時、铸造余り銅で作成された鯨、15年かけて一对に揃えた。



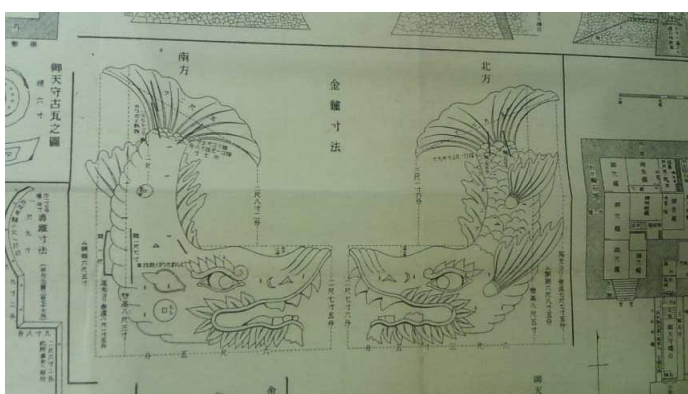
木彫の鯨 用途不明



銅板による鯪 泳いでいるようであるが、用途は不明



初三郎鳥瞰図表紙



金城温故録の金鯪



金鯢展ポスター



鯨もなか個装と外装、中はいただきました。多分、鯨型もなか



名古屋のお菓子・弁当包装紙

金箔印刷機広告



大阪朝日新聞と大阪毎日新聞の号外 左の記事はあと半分有、金鯨グッズというより資料



名古屋金城及名所図・金城名古屋名所図・名古屋附近及名所図・名古屋名所之図・金城及名古屋名所図に描かれる金鯉様々、基本木版カッパ刷であるが、位置や色合いが異なる。



名古屋市が名古屋城完工記念に配布した記念写真



名古屋汎太平洋平和博覧会昭和12年 錦絵をモチーフにした名古屋骨董市 大阪城天守竣工記念



名古屋市鐵道局入場券・酒ラベル



金鯨エンボス絵葉書



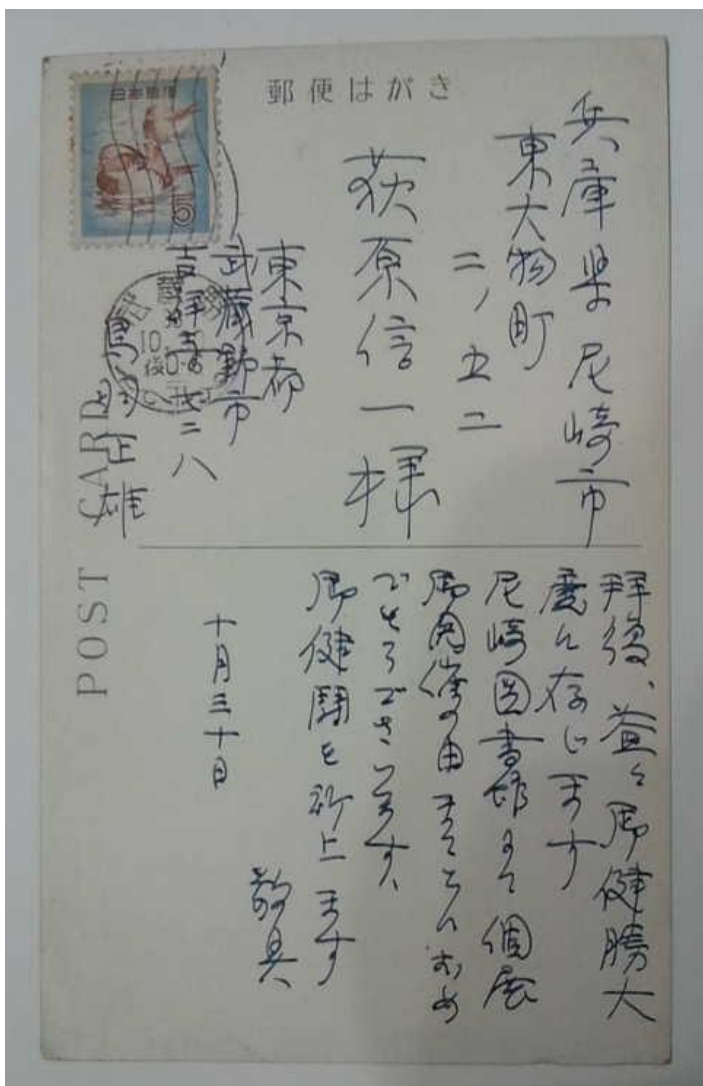
名古屋城拜観記念絵葉書袋とエンボス金鯨



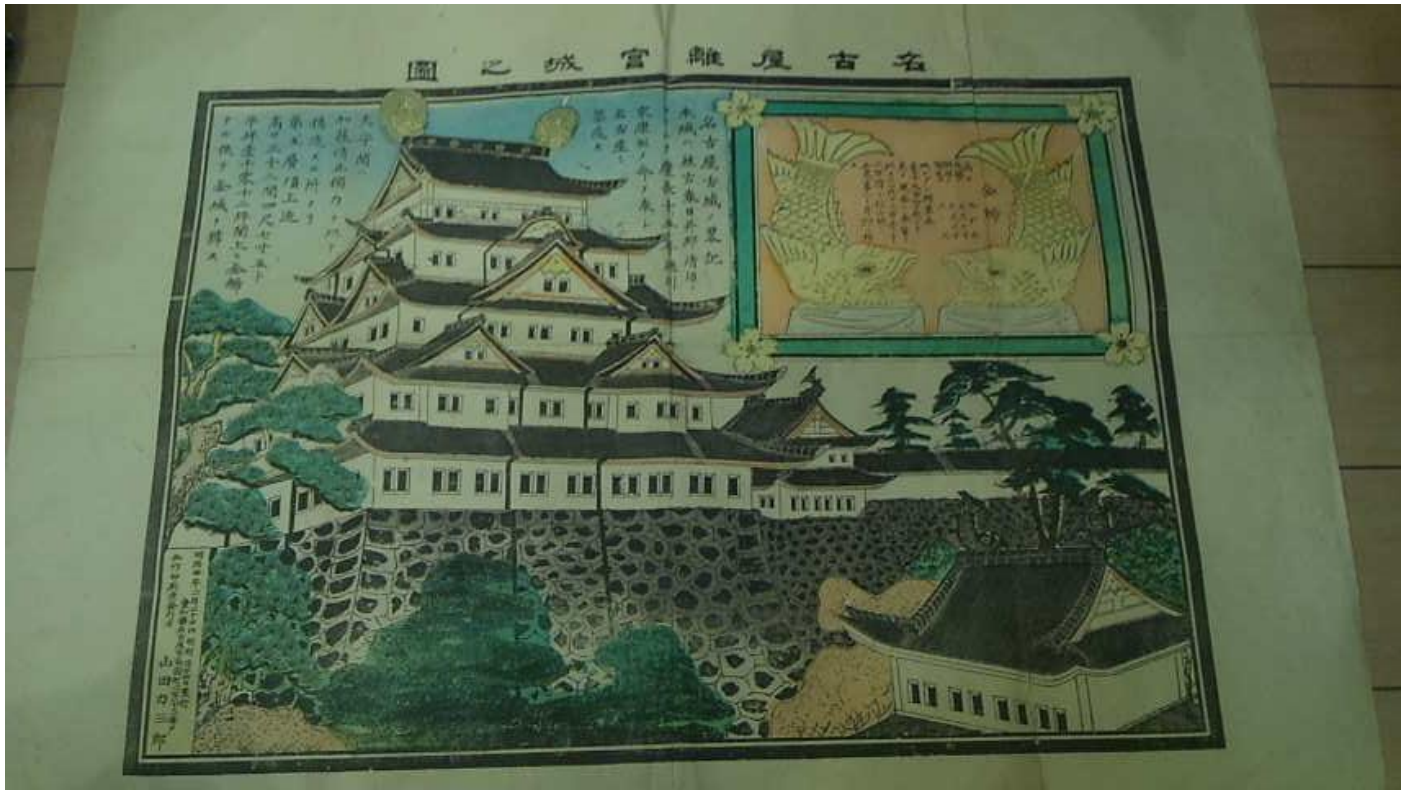
エンボス金鯨絵葉書の様々



金鯨ポスター 印刷機材展か？



城の大家鳥羽正雄先生から近畿学研顧問、萩原一青先生への個展開催お祝い葉書、裏は金鯨



名古屋離宮城之図

古典籍類、額類、軸装類は未調査ですが、今回はこれで。
 城絵図展は持ち出し容易ですが、城グッズ展は大変です。紙上展が正解かもしれません。

2・石引き絵図各種 金鯰調査の中で名古屋城石曳図が出てきたので紹介。





加藤清正石引の図 名古屋城造営加藤清正石材運搬之図
 明治43年3月21日 開府300年記念 伊藤氏政著 泉昌堂伊藤商店



兵庫県立歴史博物館の観覧券に描かれた石曳図、名古屋市立博物館所蔵品か？



昭和10年神立村忠魂碑石運搬
 湯浅廣港修築工事内部十石採石場



加藤清正石曳図木版

3・特別史跡熊本城跡平成28年熊本地震被害調査報告書

熊本城総合事務所と熊本城調査研究センターさんは逐一復興に向けてというパンフレットでその取り組みを紹介されている。気宇な災害の記録は今後の貴重な復興記録や城郭構築技術の解明につながる。その中で地震発生以降の経過、被害状況、重要文化財被害状況、石垣被害が図面、写真入りで公開された。168頁に被害状況の動画、復旧作業のCDも添付されている。



新収集情報報告

掲載は入手順に入手後、翌日に記載しています。メモ代わりの備忘録ですので順不同です。

掲載分類は城郭図、城郭錦絵は城郭、群馬地図、資料は群馬、錦絵地図は錦絵、地図類は航空写真も地図、錦絵軍事、砲術、調練は軍事、後はタイトル通りです。

1・古絵図・古地図

坂出市街明細図 昭和2年 神崎書店

大日本職業別明細図岡山県倉敷市 昭和15年 東京交通社 2種

下野国輿地全図 彩色絵図

台北市地形図 1000分I 中華民國69年 台北市政府工務局都市計画処 16枚

台北市公園緑地分布図 台北市政府工務局公園路灯工程管理处 中華民國83年25000分I

日本名蹟誌第十二編磐城岩代之部一二巻 明治37年 光彰館 明治39年 東屋沼神社・日吉神社・稻荷神社・信夫山真景他銅版地図34図

白河市街図・白河町案内 白河町役場大原衛兄 戦前

名所写真入長岡市全図 15000分I 酒井書店 昭和6年

実測詳密最新京城全図 明治40年 森山美夫 日韓書房

最近実測函館精図 小島大盛堂 昭和2年 泊川勇次郎

大阪名所方角附 木版色カッパ刷 引札旅館まつや与兵衛・松栄館

金刀比羅山全景案内図 昭和16年 箸方森治 縦位置鳥瞰図

校正大日本輿地全図・樺太千島図 明治5年 木版色刷 玉蘭齋貞秀

従馬喰町東京見物独案内名所方角略絵図 木版2色刷 引札旅人宿水上由兵衛
月山湯殿山羽黒山最上三十三所順拝道中案内略図 昭和4年 富士屋直助 三光社
大日本職業別明細図宮城県 昭和10年 東京交通社 亘理・岩沼・増田・角田・丸森・白石・
船岡・棚木・村田・川崎

大日本帝国新図完 明治25年 佐藤龍太郎編 田中太吉・松邑孫吉発行 銅版色刷 148 x
108 cm 表紙付

大日本鉄道及外国汽船賃銭表 明治25年 黒川柳右衛門 いろは書房

清国北京城之図 明治27年 中九貞

大日本職業別明細図福島県会津若松市会津地方図 昭和16年 西村善汎 東京交通社

静岡市全図 8000分I 大正14年 静岡市土木課編纂

五智山全景図附親鸞上人配所旧跡 五智国分寺蔵版 大正13年 紀久井重次郎

大仏殿由緒略記 鳥瞰図 大正11年 東大寺蔵版 石版色刷

昭和11年兵庫県出石郡出石町勢一班・出石町全図 6000分I

旭川市全図 12000分I 青焼き 1933年

基龍市街図 昭和11年 川添修平

2・古典籍・古記録

阿蘭陀国条約並税則 1863年 第六条神奈川箱館兵庫開港等11条・税則七則 写本

津和野藩亀井家文書 御上書・書付・御内書等10通

3・印刷資料

二條御城絵図銅版 10 x 15 cm

4・錦絵・引札・双六・絵葉書・古写真

東京新橋鉄道繁盛並高輪遠景 国政 3枚続きの左右

新板七津伊呂波清画双六 若狭屋與市 豊国

5・軍事資料・武器武具

海軍臨時講習講義録 第3回3冊・4回3冊・第5階1冊 計7冊 昭和2年

近衛歩兵第一旅団兵營之図 明治29年 石版 東義道 博愛館

軍人道德の学理 海軍砲術学校

思想研究資料11冊 海軍省教育局 昭和5年6年

川中島古戦場之図・川中島附近要図 城山館 2枚

6・城

錦絵御物金鯨之図 明治8年京都大博覧会出品 遠藤茂平 井上治兵衛版行

岡崎城公園設計案 本多静六 設計図1200分I 大正6年

熊本城1巻1号~5巻2号 内1巻11号除く49冊、3巻1号はダブリ3冊 昭和15年2月11
日より昭和19年2月11日まで5年分 皇紀2600年記念熊本城址保存会刊

下野古城系図録全 明治23年写 宇都宮城・塩谷城・壬生城・小山城・長沼城・皆川城・薬師
寺城・足利城・佐野城・阿曾沼城・小野寺城 康午年中頃下野上野下総古城系図記事

名古屋離宮城之図 明治30年 山田力三郎

城グッズ 高知城懐徳館入場券大人20円昭和33年4月4日・

城文献 城郭史研究37号・大阪城趾写真帳・安土城関連文書調査報告9 村田家文書目録・



城絵葉書 ・伊予白滝浮亀橋より瀧山城趾の遠望・



名古屋城手彩色巨大な水堀に3層櫓右遠方に天守明治11年撮影。ほぼ同一絵柄の彩色のない少し古い木が密生していない絵葉書には西北櫓とあるが、現存深井丸西北隅櫓とは広大な堀に対し、大屋根の棟の方向が違う。

購入見合わせ 1626年古人たちの神々の姿について148000円安土山図屏風唯一の資料と伝えるが、あの簡素なイラスト2枚が精緻な安土山図屏風の写しとは信じられない。市場に出る不思議はともかく、購入拒否である。・**興国寺城絵図6300円**67 x 51 cm額入、購入予定で

対峙したが、発掘調査中であり、来年報告書も出ることと、額入りであり収納に困る、より精度の高い絵図を所蔵済みであるため。途中で入札を遠慮した。・山中城址之図5000円4000分I昭和3年昭和の印刷は不要・明治20年第一版築城学教程42000円これまで市場に出た築城学教程はすべて入手、その数、100余にのぼり、目録は関西城郭研究会会誌城193号に明治以降陸軍城郭研究編年史として紹介した。明治20年版は未所蔵であることが確認できず、予想以上の高額に競りをやめた。未蔵であることが確認できれば購入したであろうと思われる。

7・群馬県史料

8・その他

あとがき

1・陸軍省城絵図の波及

戎光祥出版さんが刊行していただいた『富原文庫蔵陸軍省城絵図』は初公開が伊那の三洋グラフィアさんみまよせホール開館記念における長野県の城絵図展における県下10城絵図であったが、刊行後、徳川美術館天下人の城絵図展における愛知三重の6城絵図、日本城郭協会お城EXPOにおける厳選城絵図展全国10数城絵図とあり、全国の教育委員会さんに好評にご評価いただき、展示や図録掲載等多く申し込みをいただき、データの提供は出版用に撮影いただいた高精細画像があるので、戎光祥の伊藤社長に協力いただいている。絵図の評価については森山英一先生が改めて独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所刊行『近世城跡の近現代』2017に詳細な紹介をいただいた。絵図集に於いても高田徹さんが個々の絵図の活用方法について事例を発表いただいた。国内で散逸した城絵図についても、国内に入った時点の画像がかなり収蔵しているので、公開はしていないが、引き続き、探索中である。今後の予定とすれば、刊行により、万一の散逸防止と研究資料としての画像公開保存の責任は果たした。ただ、現存唯一の城絵図となる画像も多くあり、各地の教育委員会さんから分割購入の依頼もいただくが、ご辞退させていただいている。永久に所蔵の意志はないが、散逸させたくないのである。今後、各地の城展に協力する他、124城絵図すべての一堂の展示会の開催、さらには公の機関における一括収納が出来ればと考えている。

2・城グッズのお菓子コレクション

紙上金鯨展開催に為、展示ケースからグッズを下ろし、撮影していたら溶けた飴が出てきた。どうも元は金鯨型の飴であったようで、単なる塊と化した飴に、10年以上前の出来事を思い出した。40-50年前に安土城天主の直径30cmのレリーフが刻まれたチョコレートを3800円ぐらいで購入し、宝物のように抱えていた。安土城は50数年前におどずれて感動して以来、城に携るきっかけを提供してくれた。博物館建設の目的もプロの立場で安土山図屏風の発見にある。いまだ、目的は果たしていないが、あの名護屋城図屏風も元は業者さんの競り市に持ち込まれた絵図(当時は屏風ではなかった)であり、不可能ではない。本物はバチカンに持ち出されたが、下絵ぐらいは残っているであろう。あのちゃちな版画が写しとは認められない。ということで、期待を込めて20年ぐらい前に大事に箱を開けて愕然とした。考えたら当たり前であるが、チョコから油分が飛んで粉になっていた。以来、城型の食品はコレクションから外している。お土産に頂く。城最中、煎餅等ありがたいいただいている。城のお酒ボトルはいただいたまま飲まずにコレクションにしている。そのうち紙上城型容器、城名酒ボトル展でも企画したい。

3・日本の古本屋ネット登録1000点

12月から始めて、古書組合のネット日本の古本屋の登録件数が1000点になった。骨董市や目録とは違った味わいがある。これまでは大名書状や古地図、地元資料を掲載、全国の大学、博物館、図書館、教育委員会から引き合いいただいた。契約件数を4月から3000点に増やしたため、これからは時間のある限り城郭文献を登録していきたい。ただ、数万点に及ぶ登録には時間がかか

るため、一部の研究者の方はメールで探究書をご連絡いただき、返答させていただいている。ほとんど毎日全国の研究者から発注をいただき、博物館資料、地方誌、オンリーワンというコンセプトは日本の古本屋というサイトにあっているようです。お納めして喜んでいただくというのは、古書籍業には本懐です。コレクター半分、自覚が不足しています。

4・城絵葉書の整理

約5万枚の分類済みの城絵葉書以外に、1万枚以上の城絵葉書は本報告で掲載以降、8年間分類できていない。24時間城とはいえ、骨董市、目録、ネット対応となかなか時間が取れない。しかし、このままでは活用できないため、3日間かけて分類した。昔、古書市で1枚ずつ見ながら胃が痛くなるに堪え、絵葉書を漁っていたことを思い出した。業者さんは場所を取らず高付加価値と人気の絵葉書であるが、ネットではほとんど1枚1000円から、売買されている。たかが画像一枚、本の一ページと思ったら買えない。最近は業者さんが城・地図絵葉書をまとめて持ち込んでこられる。熱心なコレクターさんや、該当地区の教育委員会さんは未発見の1枚の絵葉書発見に狂喜しておられる。昔、中世、織豊城郭の絵葉書を1冊にまとめて刊行した。今も絵葉書の中心は近世城郭であるが、小生の影響か城跡絵葉書が高騰している。1枚1000円で買えない未知の絵葉書も多い。たかが絵葉書されど絵葉書。あの小さい字を1枚ずつ読み分類する作業は目にいいとは思えない。行政の調査にもご協力している。ある教育委員会さんはスキャナー持ち込みで来場され、該当城郭の絵葉書総てをスキャンされた。ということで、未整理の1万枚は以下のように分類した。まだ既存の絵葉書との合流は出来ていない。城絵葉書はとりあえず地方別、何れ城別にしたいが、こうしておけば必要な時に取り出せる。日本地図絵葉書、世界地図絵葉書、国内地図絵葉書、版面絵葉書、軍事関連、北海道地図、中国台湾朝鮮絵葉書、初三郎等鳥瞰図絵葉書、瞬間的に地域分類できなかった多くの町並と城跡の絵葉書（城名の表記がない、城絵柄が部分的で判断できない、城名はあるが地域が確定できないETC）、多くの城入場券、大量の城の燐寸木版ラベル、城仲間の年賀状。

5・33歳47年前の記録

絵葉書を分類していたら、大量の城見学会や展示会等学生研究会時代の写真や大阪、金沢時代の記録が出てきた。33歳の社内報記事『城、この言葉が私の身辺から消え去る日は、おそらくないであろう。幼き頃の織田信長の生きざまへのあこがれ、彼の最大の作品安土城跡との出会いは以来20年、小生を城にかりたてることとなった。山野に眠る無名の城の一つ一つから、攻守の戦術、戦略を読み取る時、その遺跡は躍動し、そこに人類の英知、汗、信念を伝え、小生の心が築城家の思想と一体となった時、一種の連帯と感動を覚えるのである。そして。その兵法が北は近世の五稜郭の要塞から、南は沖縄中城城跡、はては、新羅三年山城、京畿道水原城と古今東西、通ずる所を見る時、城に人類の壮大なロマンを見るのである。吹雪の山城歩き、海中の柱穴調査の海賊城、ロープで30メートルの石垣を連日昇降した大阪城等々思い出は尽きない。新たな城との出会いが、未知との遭遇を求めて、全国数万もの城へ小生を導く。』これから積算すると、城歴は67年となる。全国の城訪問は4-5千にとどまっている。このころは図説中世城郭辞典の石川県を担当、縄張調査に奔走していた。大阪城や名古屋城との石垣刻印の拓本を取りまくっていたのもこのころである。今見ても情熱を感じる。さすがに当時の意気も覇気も持っていない。この後は東京転勤と共に仕事に埋没し、城は現地調査より、東京という地の利を生かした城絵図の調査に追い付くことになる。しかし、城が消えることがないという言葉は事実となった。

6・幕末海防陣屋の研究が進んでいない。毛利藩と池田藩の事例

富原文庫蔵毛利藩（萩藩）、池田藩（岡山藩）撰海防陣屋絵図の比較検討
とりあえず画像データのみ、特に天満陣営図はその比定に10年ほどかかった。

毛利藩 絵図名 摂州内出村御陣所全図 サイズ 99 x 146 cm

一、地面坪数六千三百六十坪余但木戸内並外道筋共

一、建家坪数九百九十六坪余但家数大小三十五棟土蔵三棟並用場共

東 木戸 44, 5間

西 中央に木戸道、北に木戸あり倉2基118、25間

北 66間 南 64、92間

大手 西木戸道巾3間左土手敷1間長さ62間内枳形

周囲 293, 67間、堀あり

南土墨仕切り有、大砲練習場あり、西端大砲置場土間56坪2号6夕、東端南山(的)池、

設備 槍術場・剣術場、講堂、物置、大工小屋

岡山藩 絵図名 天満御陣営図 サイズ 105 x 108 cm、

大手石垣長延三百七十一間二尺五寸、高サ南東九尺四寸北西六尺四寸

堀内外惣廻り石垣長延三百八十五間二尺、高サ表高六尺裏高平シ五尺

御建物 御将営惣数二百三十七惣、御長屋大小十七棟、御土蔵三ヶ所、稽古場壺棟、御作事方会所

並普請小屋射場鉄砲打小屋壺棟、供待壺棟、牢屋壺棟、惣雪隠九ヶ所

土居高サ南東内高九尺外高五尺馬踏巾五尺、内北西高サ内高六尺外高五尺馬踏巾五尺

図面之外井戸三ヶ所場所相極無し出来之上書入可申事

東西南北 堀石垣土墨構築 堀外に四方往来めぐる、往来は南で東西に、東で北に延びる

南 土居、犬走り、石垣、水堀三間、外に往来、さらに南に大河(淀川)、陣営東南部の川に船着き場と橋、南表御門正面にも橋、さらに淀川に大規模な橋があり、表御門橋城外側に柵、往来との間も柵、淀川に船着き場、西南に裏鬼門

北 土居、犬走り、石垣、水堀、城外に往来、東北に鬼門除け、中央に不浄門、水堀に橋、馬場、大手石垣九拾間四尺八寸、水抜

東 土居、犬走り、石垣、水堀、城外に往来、通用御門、橋、三間物置、御番所、大手石垣八拾貳間三尺八寸

西 土居、犬走り、石垣、水堀、用心御門、橋、大手石垣九拾九間四尺八寸、水抜き二か所

表御門 南に面し、内枳形内寸八間八間、

西北角煙硝蔵二間二間半、柵あり、

東北角御米蔵九間、一間半二間土間、鉄砲打場、弓打場、

中央に御殿、御庭、御湯殿、稽古場、周りに長屋一七棟、

東南に御作事小屋三間七間 西南に御武具蔵

発行所

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109 群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

携帯電話 090-2722-4689(しろはく)

FAX 027-315-4689(しろはく)

Eメール shirohaku@kym.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.shirohaku.com/>

ミュージアムショップ 群馬県古書籍商組合加盟

博物館資料専門店

古地図と城 古書肆 城郭文庫

代表

富原道晴
